

魅惑のメンデルスゾーン

Magical Mendelssohn

指揮とお話 三ツ橋 敬子 Keiko Mitsuhashi, *conduct & talk*

ヴァイオリン 辻 彩奈* Ayana Tsuji, *violin**

コンサートマスター 近藤 薫 Kaoru Kondo, *concertmaster*

メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64* (約26分)
Felix Mendelssohn: Violin Concerto in E minor, op.64* (ca. 26 min)

- I. アレグロ・モルト・アパッシオナート Allegro molto appassionato
- II. アンダンテ Andante
- III. アレグレット・ノン・トロppo アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ
Allegretto non troppo – Allegro molto vivace

休憩 Intermission (約15分)

メンデルスゾーン: 交響曲第4番 イ長調 作品90 『イタリア』(約27分)
Felix Mendelssohn: Symphony No. 4 in A major "Italian" op.90 (ca. 27 min)

- I. アレグロ・ヴィヴァーチェ Allegro vivace
- II. アンダンテ・コン・モート Andante con moto
- III. コン・モート・モデラート Con moto moderato
- IV. サルタレッコ:プレスト Saltarello: Presto

第6回

平日の
午後の
コンサート

7/20(木)14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

Thu. July 20, 2017, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催:公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan

イラスト:ハラダ チェ



7/20

メンデルスゾーン：

交響曲第4番 イ長調 作品90 『イタリア』

1830年、21歳のメンデルスゾーンはイタリアを訪問。ミラノ、フィレンツェ、ジェノヴァなどをまわり、同年11月から翌年4月までローマに滞在しました。当地の南国的な空気や謝肉祭などの風物に刺激を受けた彼は、滞在中に本作の作曲を始め、1833年ベルリンに戻って完成。ロンドン・フィルハーモニック協会から依頼されていた交響曲にこれを当て、同年5月ロンドンにて自身の指揮により初演しました。しかし出来映えに満足しなかった彼は、手元に置いたまま出版せず、改訂を重ねます。出版されたのは死後の1851年。それゆえ第2、3番よりも前の作ながら第4番となりました。

本作には、北ドイツのハンブルクに生まれ、やはり北部のベルリンで暮らすメンデルスゾーンが受けた陽光輝くイタリアのイメージが、簡潔・明快に反映されています。旋律美やリズム感も比類がなく、中でも当地の民俗舞曲サルタレッロ(15世紀頃に誕生した3拍子の快速舞曲で、交響曲での使用は類例がありません)を用いた終楽章には、誰しも心が躍ることでしょう。ただこの曲、面白いことに長調で始まり短調で終わるという交響曲としては珍しい構成になっています。そのことでただ明るいだけでなく深みが加わったともいえるでしょう。

第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ。弾けるように流れ出す冒頭の旋律=第1主題が、まさにイタリアを感じさせます。木管楽器で出される第2主題に、歯切れの良い主題も加わり、爽快な高揚感が生み出されます。

第2楽章：アンダンテ・コン・モート。ナポリで見た宗教行事の印象を反映したといわれる、短調のセンチメンタルな緩徐楽章。詩情豊かな旋律が息長く歌われていきます。

第3楽章：コン・モート・モデラート。憂いを帯びたメヌエット風の楽章。ここはドイツ的な荘厳さも漂います。

第4楽章：サルタレッロ、プレスト。3連音を重ねながら躍動感満点に畳み込む熱狂のフィナーレ。これが終始短調で書かれているのは意外です。

しばた・かつひこ(音楽ライター)/音楽マネージメント勤務を経て、フリーランスの音楽ライター、評論家、編集者となる。コンサートのプログラム、宣伝媒体、CD、雑誌等の原稿執筆およびプログラム等の編集業務のほか、「ラ・フォル・ジュルネ」での講演や一般の講座も行うなど、クラシック音楽を中心に幅広く活動中。